



【味生第二小学校】

＜第4学年：ハートをひろげよう＞

子どもたちは3年生のときに総合的な学習の時間で、校区には高齢の名人さんが大勢いることを知った。今年度は、さらに高齢者に目を向け、高齢者との触れ合いを通して自他のよさや人と触れ合うよさに気付くとともに、高齢者への理解を深めたいと考え、本単元を設定した。



まず、高齢者疑似体験をし、高齢者にはよさだけではなく不自由さもあることに気付いた。年をとると体にいろいろな変化が起こること、それに対応した食事やバリアフリーがあることなどを調べた。その中で、病気の一つとして認知症があることも知った。そこで、認知症サポーター講座を受け、認知症という心の変化や、それに対してどのようなことができるのかを学習した。これらの活動を通して、高齢者と触れ合いたいという子どもたちの思いはさらに高まった。

交流は、校区にあるデイサービスと隣接した高齢者福祉施設に依頼した。1回目は高齢者はどんなことをして過ごしているのか、高齢者のためにどのような設備や道具があるのか、介護をしている方はどんな仕事をしているのかなど、見学したり質問したりすることができた。介護用の風呂や筋肉トレーニングの道具、車いすも実際に動かしてもらった。最後に、子どもたちが歌を歌ったりダンスを披露したりすると、とても喜んでくれた。この交流で、高齢者の様子が分かるとともに、調べてきた施設の様子が理解できた。そして、高齢者に合った交流をしたいと意欲が高まった。2回目の交流は、グループに分かれて高齢者とそれぞれ交流することとした。「どのような活動が一緒にできるのか」、「耳の不自由な方にはどうしようか」など、相手の立場に立った計画を立てることができた。簡単ボーリングやぬり絵などいろいろな交流ができ、高齢者に大変喜んでいただいただけでなく、子どもたち自身も楽しむ様子が見られ、大いに満足できる活動となった。



【高齢者とのゲームの様子】

本事業を通じて、高齢者について学習し、校区の高齢者と交流することで、地域のひと、もの、ことへの興味・関心が高まった。また、自分たちで計画、準備した交流を喜んでもらえたという達成感を味わい、主体的な学習を展開することができた。「まごころ」が合言葉である味生地区の一員として共に生きていくことの大切さを知るよい機会となった。次年度もさらに改善を図っていきたい。